

令和7年度 第6回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年6月25日(水) 19:00～

場 所:林中コミュニティセンター

参加者:11名



◆ 地域コミュニティ組織「コミュニティ林中」で各種団体を繋ぐ役割を担っています／担い手不足解消のために運営審議会を設けました

(参加者)

地域コミュニティ組織に移行してよかった点を2つあげます。

一つ目は、コミュニティ林中が地区に点在する約80団体を取りまとめる地域コミュニティ組織として機能している点。林中地域には多様な団体があり、個別の活動は活発でしたが、コミュニティ林中ができたことで団体間を横断する事業を担えるとすぐに考えました。個々の団体だけでは難しい取り組みも、コミュニティが仲介すれば進めやすくなります。

具体的な取り組みは3年かけて進めています。1年目は団体同士をつなぐネットワーク構築に重点を置き、「結ネット」というスマホアプリを導入して稼働させました。予算も大きく配分し、団体間のコミュニケーション基盤を整えた年でした。2年目には、災害時の弱者を守る個別避難計画の運用を開始しました。町内会長や町内会、自主防災会、消防団、コミュニティセンター、民生委員など各種団体に協力を依頼し、1年かけて計画を稼働させ、現在は運用2年目です。3年目には、個別避難計画と結ネットを連動させ、高齢者施設と「災害時ボランティア協定」を締結しました。能登級の地震が起きた際支援を要請し、結ネットを通じて地区の人々へ一斉に呼びかけて応援に駆けつけてもらう仕組みです。これがコミュニティ林中としての3年目の実績になります。

今年は4年目に入るため、市民提案型まちづくり支援事業に手を挙げました。まちづくり委員会が主体となり、5つのまちづくり部全体で取り組む予定です。事業名は「林くん、中ちゃんの林中お

散歩」で、本日採択の連絡を受け、7月から開始する予定です。コミュニティ林中が各団体をまとめることで、声をかければほとんどの団体が協力してくれるため、事業実施が格段にやりやすくなりました。

2点目は、担い手不足への対策です。去年は後任選任に苦戦したことを踏まえ、かつて公民館時代にあった運営審議会の仕組みを参考に、コミュニティ林中でも運営審議会を組織しました。今回、新たに10名を指名しています。

運営審議会のメンバーには、地区の担い手になり得る新しい方々を中心にお願いしました。センター長選考の際に多くの方が断った背景には、地区の状況や業務内容が十分に分からないために二の足を踏むという事情がありました。そこでまず運営審議会に参加してもらい、業務の実際を理解した上で役割を担っていただく流れを作ることで、担い手不足の解消に向けた取り組みを始めたいです。以上が、良かった点の2点です。

最後に2点質問があります。市議会が開催中だと思うのですが、地域コミュニティ組織が1年間稼働した成果は何ですかという質問に対しての答弁が、今年はセンター長とコミュニティ組織の会長が10人になりましたとあったのですが、それが成果なのかという質問が1つ目です。

それから2つ目です。行政としてはコミュニティ組織について何を期待するのか、冒頭に複数の団体間を結びつけているという話をしましたが、それでいいのかどうか、本当はこんなことをやって欲しいというのであれば、教えていただければと思います。この2つです。

(市長)

議会での答弁は、コミュニティセンター長と地域コミュニティ組織の会長を兼ねている地区は幾つ増えましたかという質問への答えです。

白山市には28の地区があり、地区ごとに成り立ちや現状が異なります。前市長もお話しされていましたが、とくに今回、地域防災を中心課題に据えて、地域の課題を「自助・共助」の考えで解決するための組織を各地域に作っていく必要があると考えています。

その点で、先ほど申し上げた80の団体をまとめ上げることは非常に重要です。これまでにいくつかの地区を回らせていただきましたが、空き家問題や後継者不足といった課題を抱える地域も多くあり、地域のコミュニティ組織でどう解決していくかをいろいろと考えて取り組んでいるところが出てきています。

市としては、防災を最優先課題として位置づけ、すべての地区で防災活動に取り組んでいただきたいと思っています。そして、地域のまとまりをつくり上げていくことが重要です。林中地区の皆さんは自主防災にも非常に熱心で、よく工夫してやってくださっていると思います。

私としては、各地区で「住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思えるような地区を作るにはどうしたらいいかを皆さんで考えていくというところに、まず取り組んでほしいと思っています。

◆ 結ネットが災害時に役立っていますが、費用負担の課題があります

(市長)

結ネットはスマホに情報が入ってきますね。登録者はどのくらいですか、全世帯は難しいのでしょうか。また、地区内の連絡や、防災や避難のことが出ましたが、例えば施設の方にもお願いして入ってもらっていると思いますが、いかがですか。

(参加者)

全ての方が活用している状況ではありませんが現在 260 人が入っています。

結ネットの活性化委員会を作っていますが、いかにして多くの方に参加していただくかが大きな課題になっています。同時に、基本的に費用を地域コミュニティ組織で負担しているので、増やしたいけれども費用的な問題もあります。

共通認識として「コンテンツ不足」があり、欲しい情報が十分に掲載されていないため参加が伸び悩んでいると感じています。一般には電子回覧板のようなイメージだと思いますが、本来の使い方とは異なる運用になっている点も課題です。受け手にとって何らかの明確なメリットがなければ、なかなかアクセスにつながりません。

一方で、結ネット導入後に大雨が 2 回あり、地震も発生しましたが、能登地震の際には発生から 2～3 分後に会長から「余震に注意してください」という呼びかけが配信されました。その直後に避難所が開設されるなど、結ネットを活用して迅速に情報発信・連絡ができ、機動力が高いと感じています。

◆ 地域コミュニティ組織に移行して、役職と会議が増えて負担が増えましたが、解決策として地区内のコミュニケーションを深める取り組みを進めています

(参加者)

町内会長としての話ですが、当て職や兼務が多く、自分の町内の仕事もあるため、週に 4 日から 6 日ほどは対応に追われています。担い手不足の課題があるなかで、当て職を減らさないと新たな手は見つからないと思います。現役で働いている方は会社で迷惑がかかるので、正直言って難しいのが現状です。

話は変わりますが、今月初めの夜 8 時半ごろ、近所の方が我が家に来て「ある小学生がまだ帰ってきていない」と知らせてくれました。すぐにみずほ町内の青年団や動ける方、子ども会、主だった役員に LINE で連絡したところ、次々に集まっていただき、周辺を搜索しました。同時に警察にも通報し、警察の方も迅速に対応してくださいました。

その後、結局 9 時半ごろに地区内のある家で無事に見つかりました。警察の方からも「この町内は本当に団結力がすごい」と感心されました。

しかし、いざ町内の役をお願いすると、みんな「嫌だ」と言います。そういうことに関してはなり手がいません。ですから、繰り返しになりますが、当て職を減らしていかないと、正直厳しいと思っています。

もう1つ付け加えると、市から民生委員の推薦依頼がきました。各町内で人選に苦労しており、いまま推薦者を探しているところです。本当に厳しい状況です。

(市長)

私も出城地区の区長理事をしていたので、今の気持ちはよく分かります。例えば民生委員や主任児童委員を頼むにも、年齢の制限もあって、頼みに行っても決まらない。結局区長理事の方が対応される。町内会の困り事は当然いろいろ起きてくるので、それは町内会長さんが対応しますが、大変だと思います。今お話のあった、当て職がたくさんあるというのは、例えば市からでしょうか。

(参加者)

市からはある程度決まっています。市からの要望では、民生委員の推薦が難しいのかなと思います。

(参加者)

地域コミュニティ組織に移行して感じたことですが、都合の悪いことを先に言いますと、ポストが増えて会議が増えました。それをいかに解決するかが重要であると思っています。解決方法については先ほどもお話がありましたが、私が感じたことをお話しします。

まず市民提案型まちづくり支援事業に採択いただき、ありがとうございます。林中を知ろうということについて、町内の方と話していると、自分が住んでいる地区の名前すら知らない方に時々出会います。これを解消するために、地域コミュニティ組織の中で様々な事業を組み合わせ、地区を歩いてもらう取り組みが一つの方法だと考えました。ラリーポイント制にして地区内を巡ってもらうアイデアもあります。

こうした仕組みを通じて地区を知り、地域内のコミュニケーションを深めることで、新しいアイデアが生まれ、担い手不足の解消にもつながればと期待しています。

特に困っているのは、ポストが増えたことで選考委員会を何度開いてもなかなか人選が決まらない点です。これを踏まえ、まちづくり委員会としては林中を知ろうという活動を推進していきたいと考えています。

◆ 高齢者向けに免許返納に関する助成や買い物の支援をお願いします／「ことぶき大学」の市政報告の際には介護保険料や水道水の水質についての話題をお願いします

(参加者)

少しミライ会議の趣旨から外れるかもしれませんが、高齢者の会としてお話しします。

1 点目は運転免許返納についてです。高齢化が進む中、免許を返納する方が増えています。市では返納者に対してタクシー券 2 万円の助成があると伺っていますが、これはおそらく単年度の措置だと思います。これをぜひ複数年度にわたる支援に改善していただきたいです。

また、免許を返納すると日常生活に支障が出る場合もあります。他市では移動販売車などで生活支援を行っているところもあると聞きますので、こうした支援の導入もご検討いただければと思います。

2 点目は松任地区老人クラブ連合会「ことぶき大学」でお願いしている市政報告についてです。その際に、将来の介護保険料の見直しについてぜひご説明いただきたいです。再来年かその翌年に介護保険料の見直しがあると聞いており、年々保険料の負担が増えていることから、今後の保険料見直しや高齢者施策について市としてどのように考えているのかを、詳しくお話いただければ助かります。

加えて、PFAS(有害物質)の問題にもぜひ触れていただけないでしょうか。市の取り組みや水質検査への助成のあり方について説明があるとありがたいです。この地区は簡易水道を利用していて、水質検査の費用負担が大きな問題になっています。

(参加者)

地域の高齢者支援については、めぐーの運行コースや停留所の位置を見直して、乗りやすくするといった配慮が必要だと思います。

(市長)

移動販売については、山ろく地域ではいくつか取り組みを行っています。地域コミュニティ組織でファッションセンターしまむらや無印良品に来てもらい、送迎バスを出して集まって、そこで品物を買ったり、皆さんで話したりという場を作っています。移動手段がないとなかなか買い物にも行けない、そういった課題の解決を地域コミュニティ組織の取り組みで行っていらっしゃいます。

PFAS については皆さん本当に関心がありご心配されていますね。白山市内では基準よりもかなり低い状態で、今のところ大丈夫です。

水道に関しては、水道管の問題は非常に大きな課題です。全国各地で道路の陥没などが起こり、深刻な被害もありました。今回の地震では、海側の下水管の一部に液状化の影響で破損した箇所が確認されました。石綿管など耐久性や耐震性が低い管が使われている区間もあり、これらは順次改修する必要があります。

日本全国で上・下水道の耐震化を少しずつ進めていますが、基本的には皆さんからいただく水道料金を財源として充てています。また、簡易水道を含む小規模な給水施設についても点検・検査

が不可欠です。管だけではなく、老朽化していく関連施設も計画的に更新していく必要があります。議会にも出ていましたが、様々な課題を含めて検討会で協議をしています。

◆ 壮年会の活動を活発にできたらと思います

（参加者）

壮年会では、今まで通行事ごとの補助に関して、地区や地域コミュニティ組織の助けになっていいると思い、一生懸命頑張っています。この点は公民館の頃とさほど変わりません。

近年変わったのは市連合壮年会の方です。それぞれの地区でもう少し市議会議員さんを中心に掘り起こしをしていただいて、もう一度昔のような市全体での活動が活発にできればいいという意見を聞いています。

（参加者）

壮年会の世話人をしていますが、今新しい人を入れようという動きがあります。ただ、新しい人が壮年会や老人会に入ってくれるかという、外から来た人は馴染めないこともあります。若い世代をどうやって引っ張り出したらいいのか、なかなか難しいと感じています。

（市長）

大きいお祭りがある地区は、それで若い方が集まってくると聞きますね。

（参加者）

林中でも今年、「林中じょんがら踊るまい会」の会長が中心になって虫送り太鼓の以前のメンバーを集めて盛り上げようという話が出ています。

◆ 人口増加のために8号線よりも山側での土地区画整理、工業団地の造成をお願いします

（参加者）

松南小学校が1クラスになりそうな状況になってきており、それを危惧しています。せっかく立派な校舎を作ってもらったのに、掃除をする子どもたちも大変です。

人口増加を考えると、新しい住民を迎えるための宅地がないと感じています。土地を活用して新しい住宅を建てて開発することは難しく、大変だと感じています。

(参加者)

世代間交流員をしていますが、最近、参加してくれる子どもの人数が減ってきており、理由は大きく2つあるのではないかと考えています。今やっている行事が少しずつ子どもたちのニーズとずれてきていることと、もう1つはやはり人口が減少してきていることです。

市全体の人口は横ばいですが、年少人口は減少していますし、林中でも年少人口は減少しています。部入道や柴木など、新しい団地ができて若い人が入ってくる地域では、年少人口も増えてくると思います。林中地区でも区画整理などはできるのでしょうか。

(市長)

区画整理事業をやりたいというご要望はたくさん来ています。都市計画をしていく中で、県や国とも相談しながらやっていくのですが、必ず指摘されるのは宅地開発をする一方で空き家がたくさんできていることです。プラスマイナスしたら、別に宅地開発しなくてもいいのではないかって言われてしまう。空洞化してしまうところもあるので、そこも考える必要があります。林中地区は市街化調整区域で、農業の方も結構いらっしゃいますね。

(参加者)

企業誘致をすることによって、人口を増加させることができると考えます。市の取り組みとして、人口、特に若い人口を増やすためには、企業や工業団地をつくる必要があります。市はそういった取り組みをされているのか、また、今後する予定があるのか。特に、国道8号線よりも山側でやる予定があるのかを知りたいです。

今日明日でできる話ではないので、年数をかけて山側にも人口が増えるような施策をお願いしたいと思います。そうしていかないと林中を含めて、山側の方は人口が減っていくと思います。

(市長)

工業団地は市全体で適地を検討し、今後増やしていく予定です。

◆ 介護施設の定員増に向けた施策をお願いします

(参加者)

団塊の世代が後期高齢者になるに従って、介護施設の利用希望者が増えると予想されますが、入所希望しても「満員で入れない」といった話が出ています。施設の受け入れ体制を拡充していただくため、早急な対応をお願いしたいところです。

施設側に聞くと「職員が集まらないため定員を増やすのが難しい」という声がありました。さらに、施設では「運営推進会議」を2か月に1回開催することが義務づけられており、これが負担になっているとのことです。開催頻度をたとえば4か月に1回にするなど見直していただければ、施設側の負担軽減につながるのではないかと考えます。

(市長)

人材が集まらないという問題は、介護以外の業種でもみられます。

保育の現場でも保育士のなり手が不足しており、人材確保は非常に厳しい状況です。先日、金城大学の先生からも、福祉や保育の分野に進む学生が少なく、大学側も苦勞していると伺いました。工業団地に入る企業でも求人を出しても人が集まらないという声があり、市役所でも同様です。最近には特に建築や土木といった専門職に受験者がいない状況になっています。

こうした人手不足をどう解消するかは、市にとっても大きな課題です。

福祉分野について、施設自体の不足という現状は深刻です。しかし、運営する人員がいなければ対応できないため、人材の確保に取り組む必要があると考えています。

◆ 福祉協力員の活動費の増額をお願いします／コロナ禍以降は市としての活動が縮小していますが、担い手確保には苦勞しています

(参加者)

この地区の民生委員は7名、福祉協力員は16名在籍しています。近年では、福祉協力員の活動が増えたものの、地区ごとに温度差がかなりあります。当地区では比較的早い段階から取り組みを進めてきました。

民生委員と福祉協力員の双方を経験していて違いがわかるのですが、民生委員には活動費がしっかり支給されている一方、福祉協力員の活動費は少額です。福祉協力員の活動費をもう少し増やしていただきたい、というのが第一の要望です。

(参加者)

福祉協力員は民生委員と同様に任期が3年で、担い手は女性が多いです。3年間の任期が負担になっている方もいるようです。現在の活動頻度は年に3～4回程度ですが、コロナ禍以前は施設見学や会合があり、顔見知りが増えて仲間同士で連携しやすい状況でした。ところがコロナ禍以降は活動が縮小し、講演会の参加者も少なくなっています。

また、福祉協力員や民生委員の後任を頼むときになり手が見つからない問題があります。福祉協力員を長年務めており、来年は交代したいと考えて声をかけていますが、まだ見つかっていません。

(市長)

福祉協力員について思い出すと、自分が町会長をしているときには、福祉協力員に定期的に集まってもらって、地区のどなたがどんな状態であるかなどを共有していました。そうすると、集まる会が多くなって負担が増えてしまいますが、コミュニケーションをとるときは集まった方がいいでしょう。しかし負担が多くなると引き受け手がいないというジレンマがありますね。

◆ 災害時のための備蓄場所をさらに分散させてはいかがですか

(参加者)

自主防災会長も後継者がなかなか見つかりません。防災士自体が少なく、実際に活動に参加しているのは5～6人です。市の防災士会からは地域でさまざまな活動をしてほしいと要請されますが、資格を取得するだけで、いざというときに手伝ってくれるかもしれないといった程度の方が多く、積極的に表立って活動してくれる人はあまりいません。

私が10年ほど前に関わり始めたときは、防災訓練が必要だと思い、資格もないまま町内会の方と相談しながら進めていました。

その後、林中地区の自主防災会を望む声があり、結成したいとの思いで引き受けましたが、毎年の行事の企画だけで手一杯です。基本的には毎年11月に全体の訓練を実施していますが、各町内会でどの程度訓練が行われているかはほとんど把握できていません。

防災は本来、各町内会で盛り上がっていくのが望ましいと考えていますが、現状ではなかなか盛り上がってきません。町内会長は災害時に表立って行動しなければならない立場ですが、その自覚が十分に浸透していないという課題を感じています。

また、個別避難計画や福祉施設との連携については、自主防災会でやるべきだという意見を聞きます。しかし私は、これは地区が方針を示し、地区のもとで自主防災会が追随する形が望ましいと考えています。自主防災会だけのわずかな人数で対応するのは難しく、町内会長自体がなかなか動かず、まとまりに欠ける点も課題です。

最後に市長へのお願いです。今年、県の災害想定が見直され、避難者数が金沢市も白山市も大幅に増えました。備蓄量を増やすことはもちろん必要ですが、可能であれば備蓄場所をもっと分散していただきたいと思います。

小さい町内会についてはコミュニティセンターが基地になって、そこから各町内会に配分することになるだろうと思います。けれども、みずほのように400世帯もある地域に「林中まで物資を取りに行ってください」と指示されても、とても取りに行けません。林中のみずほも来年50周年を迎えますが、50年前に建てられた家が多く、私の家もその一つです。どのような被害を受けるか予測できません。そのため、とりあえずは町内会が主体となった備蓄も検討すべきだと、以前から町内会に提案しています。

(市長)

おっしゃる通り、県が新たに出した地震被害想定で、森本富樫断層の被害がこれまでよりもかなり大きく変更されています。これを受けて市でも地域防災計画の見直しをしているところで、できるだけ早く皆さんにお示ししなければいけないと思っています。

備蓄については、コミュニティセンターには倉庫を作っていて、学校も可能なところには入れています。

備蓄するということはその分、古くなったら入れ替えをしていかなければならず、場所が多ければ多いほど管理が大変になります。備蓄量を増やすことにはしていますので、そこはまた検討していきたいと思います。

◆ 交付金の決済の仕方を柔軟にできませんか

(参加者)

地区の催しのために必要なものを購入する際などの交付金の支払いは現金のみと聞いています。カードが使えないため、現金で立て替えた後に会計へ精算をお願いする必要があり、手間が何度にもかかってしまいます。

カード決済であれば購入明細が残し、いつ・どこで・何を買ったのかが明確になります。こうした支払い方法への変更は難しいでしょうか。担当者は毎年交代するため、個人のカードで立て替えて清算する運用が一番現実的だと考えています。

地域にお金を落とすことは大切にしたいのですが、近隣では必要なものの在庫がないことが多く、注文して用意してもらう場合は手間やタイムラグが生じ、結果的にネットで買った方が早いという判断になり、地域経済への還元が難しくなります。カード払いが可能であれば、簡単に買いに行けて明細も残るため、監査においても問題は生じませんし、不正使用の心配もないはずです。

それでもカードは使えないとされる理由がわかりにくく、なぜできないのか疑問に思います。

(協働推進課長)

地域コミュニティ推進交付金(以下、「交付金」という。)は市から地域コミュニティ組織に交付しているものなので、公金のあり方としては組織名義で支払いをしていただく必要があります。

組織としてクレジットカード払いができるかというところを考えると、任意団体の名義ではクレジットカードが作れないという問題があります。また、個人名義のクレジットカードの場合は領収書が個人名になってしまいますので、その点が問題です。現状では交付金を個人名義のクレジットカードで支払うことは難しいと思いますが、今後の課題のひとつとさせていただき、可能な範囲で見直しできることは見直ししたいと思います。

(市長)

様々なご意見ありがとうございました。色々な課題については、持ち帰って検討していきたいと思います。

また、ご要望もいただきましたが、地区協議会、まちづくり委員会からも要望書を毎年いただいております。せっかく地域コミュニティ組織で各種団体の方がお集まりですので、ご意見を取りまとめて要望に入れていただいてもいいかと思います。要望書については、きちんと文書で回答しています。

ぜひ今後ともまたこの地域コミュニティ組織をさらに発展させていっていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。